#### 11月28日(土)開催

#### ガイド付きリバーウォーク!

# 歩いて知ろうよ 芥川 2

~芥川沿いに遊歩道をつくろう!~

大好評のウォーキングイベント第2弾! 自然豊かな芥川の中流部を、ガイドと一緒に宝 (良い所)を探しながら歩きます。ゴールでは災 害非常食の試食も!ふるってご参加ください!

【日時】 平成21年11月28日(土) 10:00~13:00解散予定 小雨決行

【集合】 高槻市役所 南側駐車場

【行程】 市役所~あくあぴあ芥川(約5km)

【内容】 芥川ガイドが歴史や自然を解説 災害非常食の試食(お昼ごはん)

【申込】 11月24日(火)までに、FAXまたは 電話で下記までお申込ください。 FAXの場合は、参加者全員の「お名前」 と「年齢」、代表者の「緊急連絡先電話 番号」を記入してください。

【申込·問合先】

高槻市 市長公室 政策企画室 TEL 072-674-7393 FAX 072-674-7384

# 芥川倶楽部行事予定

芥川・水辺のクリーンアップ大作戦 毎年恒例!みんなの芥川をみんなで美しく! 平成22年3月27日(土)に芥川で開催予定! 詳細については、後日、高槻市広報紙、芥川倶楽 部プログ(http://akutariv.blog85.fc2.com/)でお知らせ します。

イベント最新情報は、芥川倶楽部ホームペー ジ・ブログをご覧ください

ホームページ: http://www.akutagawa-club.net/ ブログ: http://akutariv.blog85.fc2.com/









芥川倶楽部では、川づくりや各種イベントに 一緒に参加してくださる「サポーター」を募集 しています。ご登録いただいた方にはイベント 等のご案内を差し上げます。連絡は下記まで。

#### 連絡先

e-mail: ayu@akutagawa-club.net TEL & FAX: 072 (685) 3503

### :芥川の生き物たちゃの5 ヌートリア

あくあぴあ芥川主任学芸員 高田みちよ

芥川に来られたことのあるみなさんは、犬 ぐらいの大きさの茶色のケモノが川の中を泳 いでいるところを見られたことがあるので は?あくあぴあに「ニホンカワウソを見 た!」という興奮した電話を頂くことがあり ますが、カワウソではありません。



ケモノの正体は「ヌートリア」。ネズミの仲 間で、南米原産の外来種です。毛皮が優れてい るので、1939年~49年に軍服用として各 地で盛んに養殖されました。しかし、終戦と共 に需要が減少し、養殖されていたものが捨てら れました。現在では西日本の各地に広がってい ます。芥川では津之江公園付近で確認されはじ め、あくあぴあ芥川の前でも繁殖するようにな りました。

繁殖は土手に穴を掘り、2~6頭の子どもを 産みます。本来夜行性ですが、昼間でもよく動 きます。草を大量に食べるので、川の中にいる うちはまだいいのですが、水田や畑に出てくる と農業被害をもたらすため、各地で有害鳥獣駆 除による捕獲が行われています。現在は「特定 外来生物」に指定されています。

\*外来生物法(特定外来生物による生態系等に係る 被害の防止に関する法律)

http://www.env.go.jp/nature/intro/index.html

#### あなたと自然が触れ合える芥川の情報誌





#### 2009年度総会開催!

2009年度定例総会を開催しました。

例年、七夕にちなんだ川の日に開催している定例 総会を、今年も7月7日に開催しました。アドバイ ザーの先生をはじめ、ネットワークに加盟する市民 団体や、河川管理者の国土交通省・大阪府、高槻市 などから、53名が出席しました。

田口代表の挨拶に引き続き、活動実績、活動計画 など各議案を説明し承認されました。

本年は大阪府環境農林水産総合研究所・主任研究 員の鍋島靖信氏より「生き物からみた最近の大阪湾 事情」と題し講演をいただきました。

日ごろ、川での活動を行っている私たちにとって、 昨今の環境変化が海に及ぼしている影響には興味を 持ってお話をうかがうことができました。



環境農林水産総合研究所 主任研究員 鍋島さん

平成21年(2009年)11月 発行 芥川·ひとと魚にやさしい川づくりネットワーク~愛称:芥川倶楽部~ 事務局: NPO法人芥川倶楽部 〒569-0805 高槻市上田辺町1-18 TEL 072(685)3503 ホームページ http://www.akutagawa-club.net/



# ~~~~~ 活動記録~~~~



#### 魚みち観察会 遡上実験の結果は??

8月23日(日)、今年度完成した桜堤公園前に魚みちで観察会(遡上実験) を実施しました。

実験方法は、準備として、魚みちの入り口(下流)を封鎖し、出口(上流)に網を仕掛けておきます。最下流のプールに魚を放流し、最上流まで遡上した魚は出口に仕掛けた網にかかるというもの。多くの魚がかかっていれば、遡上しやすい魚みちといえます。放流した魚は、事前に芥川で捕獲したオイカワ(19)、モツゴ(6)、ムギツク(4)、カワムツ(3)、カマツカ(2)、ドンコ(1)、ヨシノボリ(1)の7種36個体。

観察会当日、観察会参加者の見守る中、出口の網を引上げます。結果はオイカワ(30)、モツゴ(0)、ムギツク(1)、カワムツ(3)、カマツカ(1)、ドンコ(2)、ヨシノボリ(0)の5種37個体。良好な結果に参加者に笑みがこぼれます。

しかし、魚種によっては放流した数よりも増えている これは魚みち内に生息している魚が遡上し、出口の網にかかったためです。放流した魚と網にかかった魚が対応できないため、遡上率を数値化することはできませんが、多くの魚がこの魚みちで、落差工の上下流を行き来していることがわかります。また、この魚みちが小さな魚の生息場所にもなっているようです。



# いい川・いい川づくりワークショップ(東京)に参加!

~全国のいい川づくりの団体と交流!もちろん芥川倶楽部をしっかりPR~

シルバーウィーク真っ只中の9月21日、22日に国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、全国の川や水環境に関わる市民や行政が一同に会し、「いい川」や「いい川づくり」について語り合うイベント「第2回 いい川・いい川づくりワークショップ」が開催されました。

全国から集まった約50の川づくりに関わる団体により、2日間にわたり取組の発表や議論が交わされ、芥川倶楽部も「魚みちづくり」や「津之江公園自然再生化」についてパネルを用いて活動紹介を行いました。

今年度のグランプリは東京・野川での取組で、市民活動レベルの地道で継続的な活動や、画一的ではない地域独自の川づくり、行政と市民とのパートナーシップなどが総合的に評価されていたように思います。



ワークショップに参加して、全国の川づくり事例を聞いたり、活動されている方たちと交流することで、 とてもよい刺激を受けるとともに、芥川での活動においても大いに参考になる事例もあり、有意義な集いで あったと思います。

# 芥川親水交流会 開催

今後の芥川について意見交換

第2回親水交流会が、9月30日にあくあぴあ芥川で開かれ、クリーンアップ作戦や遊歩道イベントの計画の他、参加者の芥川への思いを自由に話し合いました。その中で、昔の水害の話、地域で水害防止に取り組んでいた話、トロッコ列車の復活、サイクリングロードを作りたい、魚釣が出来る場所が欲しいなど、それぞれの芥川への係わり方や興味の違いなどがよくわかりました。

川と上手く付き合っていくためには、治水・利水・親水のバランスが大切です。今後も芥川創生に向けて、話し合っていきたいと思います。



#### 水辺の学校開校

川での生き物観察などを通じて、川への理解を深める「水辺の学校」が、 高槻市内5校の小学校を対象に今年も 開催されました。

「水辺の学校」は、大阪府茨木土木 事務所が小学校を対象に実施している 環境学習で、芥川倶楽部も協力してい ます

今年参加した小学生は、約500名。夏の太陽が照りつける中、川の中に入って、網を持ってガサガサと生き物探しを行いました。あちらこちらで「これなーに?」の声があがり、ドンコなどの魚やヤゴなどがたくさん見つかりました。川レンジャーから、見つかった生き物や、生き物から分かる環境について説明を受けました。

また、茨木土木事務所の職員からは、 水の事故を防止するために、川遊びで注 意することを教えてもらいました。

この体験を通して、様々な生き物が身近な川にいることを実感してもらえたことでしょう。これからも、安全に注意しながら、川に親しんでもらいたいと思います。









7月 7日 桜台小学校 5年生 87名 8日 真上小学校 4年生116名 15日 清水小学校 4年生 90名 8月 27日 土室小学校 4年生151名(安威川) 28日 切是小学校 5年生 61名(津文江公園)

## 芥川とミズヒマワリ

芥川では2000年頃からミズヒマワリが見られるようになりました。

それから9年経った今、芥川の川面を見ると、至る所に ミズヒマワリが群生しています。

そこは、緑の絨毯に白い清楚な花が浮かんだ、とても自然豊かな場所です。アサギマダラ等の蝶も好んでやって来ます。でも"本当にそうなのかなー"と、思い出に耽ると、自分の中の何かが「違う!」と答えます。「そうだ!昔の川と違う!」

私たち芥川倶楽部では原風景の芥川に思いを抱き、3年前からミズヒマワリの駆除活動を行っています。駆除といっても人海戦術で、人の手で1本、1本抜き取るという地道な作業です。というのもミズヒマワリは中南米原産の非常に繁殖力が強い植物で、葉っぱ1枚、根っこ1本からも再生するからです。では、何故ミズヒマワリが増えると問題なのか?

ミズヒマワリは旺盛な成長力で水際や水中に繁茂し、他の植物が生えないようにしてしまいます。また水中では細かい根を広げる為、ヘドロが溜まって水中環境の悪化を招き、水の中の生き物を減少させていると思われます。これはアサギマダラには良くても、多くの生物には悪いことなのです。

そこで私たちは、ミズヒマワリの繁殖力が落ちた秋期~冬期にかけて駆除イベントを企画し、大勢の人に参加して頂いて駆除を行ってきました。厳寒の冷たい水の中の作業でも、体を動かしているうちに汗が出てきます。

塚脇橋からあくあびあ芥川の間は、みなさんの熱意でほとんど目立たない状況になっていますが、ミズヒマワリは雑草の中や水辺の一部にしぶとく残っています。私達は、今後も市民と行政の協働でミズヒマワリの根絶を目指し、頑張りたいと思っています。みなさんのご参加をよろしくお願いします。



ミスピマリリ駆 除イベントに、 たくさんの方が 参加してくれま した。



こんなに採れました!達成感!

#### ミズヒマワリとは・・・?

中南米原産。日本では6~10月頃に白く丸い花が咲き、繁殖力が極めて強い。生態系へ悪影響を与えるため、2005年、特定外来生物に指定。